

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ホッカイドウカガクダイガク 学校法人 北海道科学大学								
フリガナ大学の名称	ホッカイドウカガクダイガクダイガクイン 北海道科学大学大学院 (Graduate School of Hokkaido University of Science)								
大学本部の位置	北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号								
大学の目的	本学大学院は、学部の教育の基礎のうえに高度学術の理論及びその応用を教授研究し、その深奥を究めて産業・医療・文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	本研究科は、薬剤師としての知識を基礎に、実務に直結する研究課題を自らが発見・解決する高度な専門職業人として、科学的思考・研究マインド・研究能力を身に付け、地域医療の担い手として、各種専門・認定薬剤師を目指す薬剤師、臨床薬学の研究者、治験・臨床開発従事者などの高度な専門の人材、及び薬学部学生、大学院薬学研究科学生への教育・研究を担う大学教員、大学における研究者の養成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 薬学部 薬学科 ※北海道薬科大学大学院の在学を転学させる
	計	年	人	年次人	人	博士(薬学)	平成30年4月 第1・2・3・4年次	北海道 札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	北海道科学大学 薬学部（平成29年3月認可申請）※第1・2・3・4・5・6年次開設 薬学科 (180) 北海道科学大学大学院 保健医療学研究科 修士課程（平成29年3月認可申請） 看護学専攻 (5) リハビリテーション科学専攻 (4) 医療技術学専攻 (4) 工学研究科 修士課程 医療工学専攻（廃止） (△ 6) ※平成30年4月学生募集停止 北海道薬科大学（廃止） 薬学部 (△210) 薬学科 ※平成30年4月学生募集停止（全学生転学により平成30年3月大学廃止の認可申請） 北海道薬科大学大学院（廃止） 薬学研究科 博士課程 (△ 3) 臨床薬学専攻 ※平成30年4月学生募集停止（全学生転学により平成30年3月大学院廃止の認可申請）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	薬学研究科 臨床薬学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位			
		14 科目	9 科目	2 科目	25 科目				

教員組	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	人		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手	
新設	薬学研究科 臨床薬学専攻 (博士課程)		21 (21)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	2 (2)	平成29年3月設置認可申請	
	保健医療学研究科 看護学専攻 (修士課程)		8 (8)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	12 (12)		
	保健医療学研究科 リハビリテーション科学専攻 (修士課程)		7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	10 (10)		平成29年3月設置認可申請
	保健医療学研究科 医療技術学専攻 (修士課程)		11 (11)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	8 (8)		平成29年3月設置認可申請
分	計		47 (47)	26 (26)	5 (5)	1 (1)	79 (79)	0 (0)	—		
既設	工学研究科 機械工学専攻 (修士課程)		8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)		
	工学研究科 電気電子工学専攻 (修士課程)		10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)		
	工学研究科 情報工学専攻 (修士課程)		10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	1 (1)		
	工学研究科 建築学専攻 (修士課程)		9 (9)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	4 (4)		
	工学研究科 都市環境学専攻 (修士課程)		5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	6 (6)		
	工学研究科 工学専攻 (博士後期課程)		33 (33)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	0 (0)		
	分	計		45 (45)	14 (14)	1 (1)	0 (0)	60 (60)	0 (0)	—	
合計			89 (89)	38 (38)	6 (6)	1 (1)	134 (134)	0 (0)	—		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計				
	事 務 職 員		116 (116)		26 (26)		142 (142)		大学全体		
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		1 (1)		3 (3)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計		118 (118)		27 (27)		145 (145)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計					
	校 舎 敷 地	135,771 m ²	23,909 m ²	2,415 m ²		162,095 m ²		北海道科学大学短期大学部(必要面積:3,000m ² 、収容定員:300人)			
	運 動 場 用 地	0 m ²	127,255 m ²	0 m ²		127,255 m ²					
	小 計	135,771 m ²	151,164 m ²	2,415 m ²		289,350 m ²					
	そ の 他	101,919 m ²	0 m ²	0 m ²		101,919 m ²					
合 計	237,690 m ²	151,164 m ²	2,415 m ²		391,269 m ²						
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計						
	71,361 m ²	15,314 m ²	2,878 m ²		89,553 m ²		北海道科学大学短期大学部(必要面積:3,350m ² 、収容定員:300人)				
	(71,361 m ²)	(15,314 m ²)	(2,878 m ²)		(89,553 m ²)						
講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体			
58 室		163 室	216 室	2 室 (補助職員0人)	0 室 (補助職員0人)						
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数				複数人利用の共同研究室を含む			
		薬学研究科 臨床薬学専攻		30 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位で特定不能なため、学部と研究科の合計数			
	薬学研究科 臨床薬学専攻	49,446 [13,696] (47,706 [13,456])	438 [352] (438 [352])	2,894 [1,673] (2,894 [1,673])	389 (359)	9,058 (9,058)	223 (223)				
	計	49,446 [13,696] (47,706 [13,456])	438 [352] (438 [352])	2,894 [1,673] (2,894 [1,673])	389 (359)	9,058 (9,058)	223 (223)				

図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		5,371 m ²		487 席		260,000 冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
		5,720 m ²		野球場1面、サッカー場1面、ラグビー場1面、テニスコート6面						
経費の 見及び 維持の 概要	経費の 見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での算出 不能なため、学部と の合計
		教員1人当り研究費等		490千円	490千円	490千円	490千円	—	—	
		共同研究費等		4,795千円	4,795千円	4,795千円	4,795千円	—	—	
		図書購入費	34,642千円	13,320千円	13,320千円	13,320千円	13,320千円	—	—	
	設備購入費	113,700千円	169,559千円	43,939千円	106,531千円	84,155千円	—	—	大学全体	
学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請研究科全体		
		1,040千円	840千円	840千円	840千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、私立大学等経常費補助金、資産運用収入、事業収入等							
大 学 の 名 称		北海道科学大学								
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍		北海道 札幌市手稲区前田7 条15丁目4番1号	
工学部							1.09			
機械工学科		4	92	—	368	学士(工学)	1.07	平成20年度		
情報工学科		4	90	—	360	学士(工学)	1.06	平成20年度		
電気電子工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1.06	平成20年度		
建築学科		4	80	—	320	学士(工学)	1.18	平成26年度		
都市環境学科		4	50	—	200	学士(工学)	1.12	平成26年度		
保健医療学部							1.07			
看護学科		4	80	—	320	学士(看護学)	1.11	平成26年度		
理学療法学科		4	40	—	160	学士(理学療法学)	1.14	平成26年度		
義肢装具学科		4	50	—	200	学士(義肢装具学)	0.94	平成24年度		
臨床工学科		4	70	—	280	学士(臨床工学)	1.10	平成20年度		
診療放射線学科		4	50	—	200	学士(放射線技術学)	1.09	平成26年度		
未来デザイン学部							1.11			
メディアデザイン学科		4	80	—	320	学士(工学)	1.09	平成20年度		
人間社会学科		4	50	—	200	学士(工学)	1.15	平成20年度		
空間創造学部										
建築学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度	※平成26年度より学 生募集停止 ※平成26年度より学 生募集停止	
都市環境学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		
工学研究科 修士課程							0.59			
機械工学専攻		2	5	—	10	修士(工学)	0.80	平成4年度		
電気電子工学専攻		2	4	—	8	修士(工学)	0.62	平成24年度		
情報工学専攻		2	4	—	8	修士(工学)	0.25	平成24年度		
医療工学専攻		2	6	—	12	修士(工学)	0.74	平成24年度	※平成30年度より学 生募集停止	
建築学専攻		2	4	—	8	修士(工学)	0.87	平成2年度		
都市環境学専攻		2	4	—	8	修士(工学)	0.12	平成4年度		
工学研究科 博士後期課程										
工学専攻		3	6	—	12	博士(工学)	0.16	平成28年度		

既設大学等の状況	大学の名称	北海道薬科大学							※平成30年度より学生募集停止 ※平成30年度より学生募集停止	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	薬学部	年	人	年次人	人		倍			北海道 札幌市手稲区前田7 条15丁目4番1号
	薬学科	6	210	—	1,260	学士(薬学)	1.06	平成18年度		
	薬学研究科 博士課程 臨床薬学専攻	4	3	—	12	博士(薬学)	0.66	平成24年度		
大学の名称	北海道科学大学短期大学部									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地	
自動車工学科	2	150	—	300	短期大学士 (自動車工学)	0.70	昭和28年度		北海道 札幌市手稲区前田7 条15丁目4番1号	
附属施設の概要	名称：薬草園 目的：薬草の教育研究 所在地：北海道小樽市桂岡町7番1号 設置年月：昭和51年4月 規模等：土地3,290㎡									

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専修科目	地域医療薬学特論	1・2前		1		○			2						オムニバス
	地域医療薬学特論演習	1・2前		5			○		2	3					共同
	公衆衛生薬学特論	1・2前		1		○			2						オムニバス
	公衆衛生薬学特論演習	1・2前		5			○		2	1					共同
	小計（4科目）	—	0	12	0	—	—	—	4	4	0	0	0	0	—
	薬物治療学特論	1・2前		1		○			2						オムニバス
	薬物治療学特論演習	1・2前		5			○		2	2					共同
	情報機能薬学特論	1・2前		1		○			2						オムニバス
	情報機能薬学特論演習	1・2前		5			○		2	4					共同
	病態制御医薬品学特論	1・2前		1		○			3						オムニバス
	病態制御医薬品学特論演習	1・2前		5			○		3	1					共同
	小計（6科目）	—	0	18	0	—	—	—	7	7	0	0	0	0	—
	臨床薬剤学特論	1・2前		1		○			1						共同
	臨床薬剤学特論演習	1・2前		5			○		1	1					共同
	病態制御薬剤学特論	1・2前		1		○			2						オムニバス
	病態制御薬剤学特論演習	1・2前		5			○		2	1					共同
	小計（4科目）	—	0	12	0	—	—	—	3	2	0	0	0	0	—
	個別化医療薬学特論	1・2前		1		○			2						オムニバス
	個別化医療薬学特論演習	1・2前		5			○		2						共同
	臨床薬物動態学特論	1・2前		1		○			2						オムニバス
臨床薬物動態学特論演習	1・2前		5			○		2						共同	
小計（4科目）	—	0	12	0	—	—	—	4	0	0	0	0	0	—	
関連科目	研究計画法概論	1・2前		1		○			1	3					オムニバス
	臨床実地研修	1後・2前・2後・3前・3後・4前		4				○	1						
	小計（2科目）	—	5	0	0	—	—	—	2	3	0	0	0	0	—
共通科目	薬学研究と倫理	1・2前		1		○			2	2					オムニバス
	先端医療と薬学	1・2前		1		○				4					兼2 オムニバス
	現代社会と薬学	1・2前		1		○			1	3					オムニバス
	研究表現技法	1・2前		1		○			1	3					オムニバス
	小計（4科目）	—	0	4	0	—	—	—	4	12	0	0	0	兼2	—
研 究 題	課題研究	1～4	12					○	18						
	小計（1科目）	—	12	0	0	—	—	—	18	0	0	0	0	0	—
合計（25科目）			—	17	58	0	—	—	21	15	0	0	0	兼2	—
学位又は称号		博士（薬学）			学位又は学科の分野			薬学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
指導教員の指導により、指導教員が担当する特論1単位及び特論演習5単位並びに指導教員が所属する分野の特論、関連科目5単位、課題研究12単位は必修とし、共通科目から2科目2単位以上を選択し、他分野の特論と合わせて、30単位以上を修得するとともに、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

<基礎となる学部>
別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要																
(薬学部 薬学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基本教育科目	基礎数学	1前		2		○									兼1	共同
	基礎物理学	1前		2		○									兼1	
	統計分析法	1前		2		○			1							
	英語コミュニケーション	2前		2		○			1	2					兼1	
	人間の理解Ⅰ(健康と運動)	1前		2		○									兼1	
	人間の理解Ⅱ(民族と宗教)	1後		2		○									兼1	
	人間の理解Ⅲ(歴史と文化)	2前		2		○									兼1	
	人間の理解Ⅳ(心理と行動)	2後		2		○									兼1	
	社会の理解Ⅰ(自然と環境)	1前		2		○									兼1	
	社会の理解Ⅱ(政治と経済)	1後		2		○									兼1	
	社会の理解Ⅲ(国際と平和)	2前		2		○									兼1	
	社会の理解Ⅳ(法律と人権)	2後		2		○									兼1	
	小計(12科目)	—		0	24	0	—			2	2	0	0	0	兼9	
薬学関連科目	英語Ⅰ	1前	2			○			1	2						オムニバス
	英語Ⅱ	1後	2			○			1						兼1	
	医療英語Ⅰ	2前	2			○			1						兼1	
	医療英語Ⅱ	2後	2			○				2						
	医療英語Ⅲ	3前	1			○			1	2					兼1	
	医療英語Ⅳ	3後	1			○			1	2					兼1	
	自然科学概論	1後		2		○			1		1					
	地球環境学	3前		1		○					1					
	薬用植物学	3前		1		○				1						
	サプリメント概論	3前		1		○				1						
	化粧品学	3前		1		○				1						
	薬局管理学	3前		1		○					1					
	社会保障論	3前		1		○									兼1	
医療マネジメント概論	3前		1		○									兼1		
小計(14科目)	—		10	9	0	—			2	5	3	0	0	兼3	—	
薬学専門科目	基本事項・薬学と社会	薬学生入門	1前	2			○			3	5	3				オムニバス・共同
		情報処理法	1前	1				○		1	1	1				オムニバス・共同
		日本語表現法	1前	1			○			1						兼1
		薬学概論	1前	1			○			4	3					オムニバス・共同
		早期臨床体験実習	1通	2					○	2	12	5	1			兼1
		医療倫理学	2前	1			○			2	2					オムニバス
		介護福祉体験実習	2前	2					○	2	7	3				兼5
		医療概論	3前	1			○			2						兼1
		薬と社会	3後	1			○			1	1					兼1
		臨床心理学	4前	1			○			1						
		医薬品開発論	4前	1			○				1					
		薬事関連法制論Ⅰ	4前	1			○			1						
		地域医療薬学	4前	1			○			1		1				オムニバス
		薬事関連法制論Ⅱ	4前	1			○				1					
		薬剤経済学	4後	1			○			1						
		セルフメディケーション学	4後	1			○					1				
		エデュケーションスキル	5通	1					○		3	3				
小計(17科目)	—		20	0	0	—			11	16	9	1	0	兼9	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(薬学部 薬学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
薬学専門科目	薬学計算Ⅰ	1前	1			○				1	1				○ムニハス
	無機化学	1前	1			○					1				
	基礎化学	1前	2			○			1						
	薬学計算Ⅱ	1前	1			○			1		1				○ムニハス
	基礎有機化学	1前	1			○					1				
	立体構造化学	1前	1			○					1				
	生物学	1前	1			○					2				○ムニハス
	物理化学	1後	1			○					1				
	熱力学	1後	1			○				1					
	機能形態学Ⅰ	1後	1			○			1						
	生化学Ⅰ	1後	1			○			1						
	薬学基礎実習Ⅰ	1後	1					○	2	2	6				○ムニハス・共同
	反応速度論	1後	1			○				1					
	化学平衡論	1後	1			○			1						
	有機化学Ⅰ	1後	1			○				1					
	機能形態学Ⅱ	1後	1			○			1						
	生化学Ⅱ	1後	1			○			1						
	定量分析化学	2前	1			○					1				
	放射化学	2前	1			○				1					
	有機化学Ⅱ	2前	1			○					1				
	機能形態学Ⅲ	2前	1			○			1						
	生化学Ⅲ	2前	1			○				1					
	薬品分析化学	2前	1			○			1						
	有機化学Ⅲ	2前	1			○				1					
	生薬学Ⅰ	2前	1			○				1					
	機能形態学Ⅳ	2前	1			○					1				
	生化学Ⅳ	2前	1			○				1					
	微生物学	2前	1			○			1						
	機器分析学Ⅰ	2後	1			○			1						
	有機化学Ⅳ	2後	1			○					1				
	生薬学Ⅱ	2後	1			○				1					
	生化学Ⅴ	2後	1			○				1					
	免疫学	2後	2			○			1	1					○ムニハス
	機器分析学Ⅱ	2後	1			○			1	1					○ムニハス
	構造解析学	2後	1			○			1						
	生体有機化学	2後	1			○			1						
	分子生物学・遺伝子工学	2後	1			○					1				
	薬学基礎実習Ⅱ	2後	2					○	5	6	2				○ムニハス・共同
小計 (38科目)		—	41	0	0	—	—	7	9	8	0	0	0	—	
衛生薬学	食品衛生学	2後	1			○					1				
	公衆衛生学Ⅰ	3前	1			○			1						
	毒性学Ⅰ	3前	1			○				1					
	公衆衛生学Ⅱ	3前	1			○			1						
	毒性学Ⅱ	3前	1			○				1					
	環境科学Ⅰ	3後	1			○					1				
	環境科学Ⅱ	3後	1			○			1						
	栄養療法学	4前	1			○					1				
小計 (8科目)		—	8	0	0	—	—	1	1	2	0	0	0	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(薬学部 薬学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
薬学専門科目	生物薬剤学Ⅰ	2後	1			○					1					
	生物薬剤学Ⅱ	2後	1			○				1						
	物理薬剤学	2後	1			○				1						
	衛生・医療薬学実習	3前	2					○		4	3	2				ムニバス・共同
	薬物動態学Ⅰ	3前	1			○				1						
	製剤学Ⅰ	3前	1			○				1						
	臨床検査学概論	3前	1			○					1					
	薬物動態学Ⅱ	3前	1			○				1						
	製剤学Ⅱ	3前	1			○				1						
	医療情報学概論	3前	1			○				2		1				ムニバス
	薬理・医薬化学概論	3前	2			○				2	1					ムニバス
	個別化医療学	3後	1			○				1						
	薬と疾病 (免疫、アレルギー疾患)	3後	1			○				1	2					ムニバス
	薬と疾病 (血液、造血管疾患)	3後	1			○				1	1					ムニバス
	薬と疾病 (神経疾患)	3後	2			○				3						ムニバス
	薬と疾病 (炎症、骨・関節疾患)	3後	1			○				1	1	1				ムニバス
	薬と疾病 (循環器疾患)	3後	2			○				2		1				ムニバス
	薬と疾病 (精神疾患)	3後	1			○				2						ムニバス
	薬学英語	3後	1			○				1		1				ムニバス
	薬と疾病 (消化器疾患)	4前	2			○				2	1					ムニバス
	薬と疾病 (感覚器、皮膚疾患)	4前	1			○				1	2					ムニバス
	薬と疾病 (呼吸器疾患)	4前	1			○				2	1					ムニバス
	薬と疾病 (感染症)	4前	2			○				2	1		1			ムニバス
	薬と疾病 (泌尿器、生殖器疾患)	4前	2			○				1	2					ムニバス
	漢方医薬学	4前	1			○					1					兼1 ムニバス
	医療統計学	4前	1			○					1					
	薬と疾病 (内分泌・代謝性疾患)	4後	2			○				3						ムニバス
	薬と疾病 (悪性腫瘍)	4後	2			○				3	1					ムニバス
	臨床推論	4後	1			○				2						兼1 ムニバス・共同
	薬剤疫学	4後	1			○					1					
	臨床薬学総論	6前	2					○		5	5	2	1			ムニバス・共同
小計 (31科目)		—	41	0	0	—	—	—	17	10	6	1	0		兼2	—
薬学臨床	臨床薬学Ⅰ	3後	1			○				1						
	臨床薬学Ⅱ	3後	1			○				1	1		1			ムニバス
	臨床薬学Ⅲ	3後	1			○				1	1					ムニバス
	臨床薬学実習Ⅰ	3後	1					○		6	3	2				ムニバス・共同
	臨床薬学実習Ⅱ	4前	1					○		3	2	3	2			共同
	臨床薬学実習Ⅲ	4前	1					○		4	2	2	2			共同
	臨床薬学実習Ⅳ	4後	1					○		3	3	5				ムニバス・共同
	臨床薬学実習Ⅴ	4後	2					○		6	6	7	2			ムニバス・共同
	実務実習	5通	20					○		1						
	アドバンスト演習	6後	2					○		9	8	5	1			兼1 ムニバス・共同
小計 (10科目)		—	31	0	0	—	—	—	13	8	8	2	0		兼1	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(薬学部 薬学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
薬学専門科目	卒業研究	4後～6前	20				○		21	20	16	2			
	小計 (1科目)	—	20	0	0		—		21	20	16	2	0	0	—
	総合演習 I	4後	1				○		10	3	1				オムニバス
	総合演習 II	6後	6				○		15	15	4				オムニバス
	小計 (2科目)	—	7	0	0		—		15	15	4	0	0	0	—
合計 (133科目)		—	178	33	0		—		24	22	16	2	0	兼23	—
学位又は称号		学士 (薬学)		学位又は学科の分野			薬学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件 学部にて6年以上在学し、下記の履修方法に基づき186単位以上を修得すること。 ・履修方法 ①必修科目：178単位 (薬学関連科目10単位、薬学専門科目168単位) ②選択科目：8単位以上 (1年次の基本教育科目と薬学関連科目から4単位以上、2年次の基本教育科目から2単位以上、3年次の薬学関連科目から2単位以上) (履修科目の登録の上限：40単位 (年間)) 							1 学年の学期区分		2 学期						
							1 学期の授業期間		1 5 週						
							1 時限の授業時間		9 0 分						

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専修科目 地域医療薬学分野	在宅医療薬学特論	(概要) 薬剤師の在宅医療への関わりが求められる中で、その意義、現状、問題点、課題を整理し、在宅医療への薬剤師の介入の推進に向けた方策を見いだす。特に在宅医療を推進・継続するために必要なスキルや医療インフラ供給などに関して、調査・分析するための具体的な方策について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (10 古田精一/4回) 薬剤師の在宅医療における役割と医師・看護師・薬剤師の連携、薬業連携による在宅医療を学ぶ。 (17 櫻井秀彦/4回) 医療経済の視点からみた在宅医療の有用性を検証する。	オムニバス方式
	在宅医療薬学特論演習	在宅医療薬学に関する学術論文についてその学術的意義を関連文献を含めて精査し、研究計画の立案、研究の実施方法、研究結果の評価の適正性、これまでに報告された研究報告との整合性、関連性、新規性を簡潔にまとめる演習を行う。作成した評価結果のプレゼンテーションを通して、この領域研究進展と今後の方向性、および自身の研究課題との関連性について討論する。	共同
	公衆衛生薬学特論	(概要) 臨床医学は個々の患者を対象とし、病気の治療を目的としている。これに対し、公衆衛生は人間の集団である社会を対象とし、地域社会の努力によって疾病を予防し、健康を増進することを目的としている。超高齢化社会を迎えた今、病気の治療のみならず、病気の予防に積極的に貢献できる薬剤師が求められている。公衆衛生を予防医療の観点でとらえ、保健衛生の科学的・実践的知識を修得するとともに、環境諸要因に由来する健康被害の防止について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (14 丹保好子/4回) 人々の健康と疾病の現状およびその影響要因について学ぶ。また、予防医療に貢献するために、現代社会における疾病の予防、生活環境との関連性について学ぶ。 (18 前田伸司/4回) 感染症等が広がる仕組みや防ぐための方法について学ぶ。	オムニバス方式
	公衆衛生薬学特論演習	公衆衛生薬学に関する学術論文についてその学術的意義を関連文献を含めて精査し、研究計画の立案、研究の実施方法、研究結果の評価の適正性、これまでに報告された研究報告との整合性、関連性、新規性を簡潔にまとめる演習を行う。作成した評価結果のプレゼンテーションを通して、この領域研究進展と今後の方向性、および自身の研究課題との関連性について討論する。	共同
薬物治療学分野	薬物治療学特論	(概要) 薬剤師が積極的に薬物治療に参画できるようになるために、病態と薬物治療学に関する知識を臨床活用するための方法を学ぶ。具体的には、ファーマシューティカル・ケアの理念に基づいて、各種疾患の症例に対して病態のアセスメントを行った上で、ガイドラインや論文を始めとする各種情報を論拠とした薬物治療計画を立案し、患者への適切な薬物治療の適用について考察する。代表的な2疾患群それぞれについてオムニバス方式で同様のプロセスを繰り返すことによって、臨床活用の技能を身につける。 (オムニバス方式/全8回) (12 早川達/4回) 呼吸器疾患における最新の薬物療法を学び、薬物治療計画を立案する。 (15 今田愛也/4回) 腎疾患における最新の薬物療法を学び、薬物治療計画を立案する。	オムニバス方式
	薬物治療学特論演習	薬物治療学に関する学術論文についてその学術的意義を関連文献を含めて精査し、研究計画の立案、研究の実施方法、研究結果の評価の適正性、これまでに報告された研究報告との整合性、関連性、新規性を簡潔にまとめる演習を行う。作成した評価結果のプレゼンテーションを通して、この領域研究進展と今後の方向性、および自身の研究課題との関連性について討論する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 修 科 目	情報機能薬学特論	<p>(概要)</p> <p>骨・関節疾患、自己炎症性疾患、循環器系疾患および糖尿病の具体的な症例を基に、病態によって変化する生体内情報伝達機構や生化学的反応を理解する。さらに、適切な薬物治療による病態の変化について学ぶとともに、与えられた症例を解析し、最適な予防法や治療法を提案できる応用力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(9 江川祥子／4回)</p> <p>骨粗鬆症、関節リウマチ、自己炎症性疾患の具体的な症例を基に、細胞内情報伝達・生化学的反応の変化から見た病態を学ぶとともに、最適予防法、治療法を構築する。</p> <p>(13 佐藤久美／4回)</p> <p>高血圧、心疾患、糖尿病の具体的な症例を基に、細胞内情報伝達・生化学的反応の変化から見た病態を学ぶとともに、最適予防法、治療法を構築する。</p>	オムニバス方式
	情報機能薬学特論演習	<p>情報機能薬学に関する学術論文についてその学術的意義を関連文献を含めて精査し、研究計画の立案、研究の実施方法、研究結果の評価の適正性、これまでに報告された研究報告との整合性、関連性、新規性を簡潔にまとめる演習を行う。作成した評価結果のプレゼンテーションを通して、この領域研究進展と今後の方向性、および自身の研究課題との関連性について討論する。</p>	共同
	病態制御医薬品学特論	<p>(概要)</p> <p>生体反応調節物質としての医薬品とその代謝物の相互作用、医薬品を化学構造の面からとらえてその作用発現の機序や生体内での挙動、天然資源に由来するリード・シード化合物の創出・最適化、特定の分子標的の機能を制御する分子の探索・最適化、新規医薬品の作用機序・薬効・臨床上的問題点を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(5 伊藤慎二／3回)</p> <p>生体と医薬品、医薬品間の相互作用を考慮した医薬品の適正使用を学ぶ。</p> <p>(7 和田浩二／2回)</p> <p>植物・微生物に由来する医薬品の開発と臨床応用を学ぶ。</p> <p>(11 櫻井光一／3回)</p> <p>バイオ医薬品を含めた分子標的治療薬の開発と臨床応用を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	病態制御医薬品学特論演習	<p>病態制御医薬品学に関する学術論文についてその学術的意義を関連文献を含めて精査し、研究計画の立案、研究の実施方法、研究結果の評価の適正性、これまでに報告された研究報告との整合性、関連性、新規性を簡潔にまとめる演習を行う。作成した評価結果のプレゼンテーションを通して、この領域研究進展と今後の方向性、および自身の研究課題との関連性について討論する。</p>	共同
臨 床 薬 劑 学 分 野	病院薬剤学特論	<p>病院薬剤師がチーム医療の一員として活躍すべき分野として、感染対策、がん化学療法、輸液・栄養管理、院内製剤等が挙げられる。病院薬剤学特論では、これらの分野において必要な知識を臨床現場で活用する方法を学ぶために、院内感染対策、がん化学療法に関する知識を修得することを目的とする。さらに、院内製剤、電解質および栄養輸液の意義や適応に関する知識を修得し、病院薬剤師の問題点と将来の展望について考える。</p>	
	病院薬剤学特論演習	<p>病院薬剤学に関する学術論文についてその学術的意義を関連文献を含めて精査し、研究計画の立案、研究の実施方法、研究結果の評価の適正性、これまでに報告された研究報告との整合性、関連性、新規性を簡潔にまとめる演習を行う。作成した評価結果のプレゼンテーションを通して、この領域研究進展と今後の方向性、および自身の研究課題との関連性について討論する。</p>	共同
	病態制御薬剤学特論	<p>(概要)</p> <p>遺伝的あるいは病態による患者の薬物体内動態の個別化に関わる薬物の代謝酵素と薬物輸送担体の活性を生体側の情報として利用すること、さらに、薬物を併用した場合の薬物体内動態変動による臨床効果への影響について学修する。また、薬物送達システム(DDS)製剤による病態制御の最適化理論と、DDS製剤を用いた患者毎に個別化された投与法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(2 渡辺一弘／4回)</p> <p>薬物動態を規定する薬物の代謝酵素と薬物輸送担体とその個人差、および薬物を併用した場合の相互作用について学ぶ。</p> <p>(21 丁野純男／4回)</p> <p>最適な薬物療法を目指した先端的なDDSの理論と実際について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	病態制御薬剤学特論演習	<p>病態制御薬剤学に関する学術論文についてその学術的意義を関連文献を含めて精査し、研究計画の立案、研究の実施方法、研究結果の評価の適正性、これまでに報告された研究報告との整合性、関連性、新規性を簡潔にまとめる演習を行う。作成した評価結果のプレゼンテーションを通して、この領域研究進展と今後の方向性、および自身の研究課題との関連性について討論する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専修科目 個別化医療薬学分野	遺伝子解析学特論	(概要) 薬剤師として必要な遺伝子解析に関する知識を学び、個別化医療、遺伝子診断、遺伝子治療について臨床現場で活用できる能力を養うことを目的とする。具体的には、一塩基置換 (SNPs) の臨床的意義や検出方法、疾患の発症や薬物動態の個人差に対する SNPs の影響とエピジェネティクス、遺伝子治療実践のための遺伝子デリバリー法、およびこれらの臨床応用における倫理的問題などについて学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (20 三浦淳/4回) 個別化医療と遺伝子診断の意義、臨床応用、倫理的問題について学ぶ。 (6 多田均/4回) SNPs情報の薬物動態および薬効への影響の実際の解析法、エピジェネティクスと生命の成り立ち、現在行われている遺伝子デリバリーおよびその問題点について学修し、今後期待される遺伝子デリバリー法等の先端技術について学ぶ。	オムニバス方式
	遺伝子解析学特論演習	遺伝子解析学に関する学術論文についてその学術的意義を関連文献を含めて精査し、研究計画の立案、研究の実施方法、研究結果の評価の適正性、これまでに報告された研究報告との整合性、関連性、新規性を簡潔にまとめる演習を行う。作成した評価結果のプレゼンテーションを通して、この領域研究進展と今後の方向性、および自身の研究課題との関連性について討論する。	共同
	臨床薬物動態学特論	(概要) 医薬品の適正使用方法を薬物動態学の観点から定量的に解析する。生理的要因、病態、薬物相互作用などによる医薬品体内動態の変動を個別あるいは統合して評価し、患者における個別化された血中濃度管理方法などを解析することにより、臨床における医薬品の適正投与方法を学ぶ。また、薬物治療に関する最新の各種ガイドラインによる医薬品の有効性と安全性を担保した使用方法を薬物動態学の手法を用いて解析し、臨床におけるテーラーメイド薬物治療への実践的対応能力を養成する。 (オムニバス方式/全8回) (1 猪爪信夫/4回) 病態と薬物動態学的相互作用を考慮した薬物の投与設計を学ぶ。 (19 戸田貴大/4回) 患者情報に基づく薬物の体内動態パラメータの推定と投与設計を学ぶ。	オムニバス方式
	臨床薬物動態学特論演習	臨床薬物動態学に関する学術論文についてその学術的意義を関連文献を含めて精査し、研究計画の立案、研究の実施方法、研究結果の評価の適正性、これまでに報告された研究報告との整合性、関連性、新規性を簡潔にまとめる演習を行う。作成した評価結果のプレゼンテーションを通して、この領域研究進展と今後の方向性、および自身の研究課題との関連性について討論する。	共同
関連科目	研究計画法概論	(概要) 臨床薬学研究計画の策定方法及び先端的な高度医療の発展に寄与するエビデンスの効果的収集法と構築法を理解する。医療現場における医薬品の適正使用に関する研究課題を抽出し、その課題を解決するための研究計画の立案方法、臨床データや文献情報から医薬品の有効性と安全性を的確に評価するために重要な統計手法を学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (3 吉岡忠夫/2回) 臨床研究を遂行するための研究計画の策定法について学ぶ。 (29 大滝康一/2回) 大学病院における臨床データの使用方法と倫理的配慮について学ぶ。 (23 坂東勉/2回) 地域密着型病院における臨床データの使用方法と倫理的配慮について学ぶ。 (25 佐藤隆司/2回) 臨床研究の評価に必要な統計手法について学ぶ。	オムニバス方式
	臨床実地研修	医療施設において、患者に提供されている最新の薬物治療を理解する。臨床現場において用いられている最新の各種疾患の診療および治療ガイドライン、薬剤師業務への関わりについて学ぶ。臨床における問題点を踏まえて医療情報を分析し、臨床に必要な問題点解決に関わる課題研究を推進する方法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	薬学研究と倫理	<p>(概要)</p> <p>薬剤師がさらに高度の専門的スキルを修得するため重視すべき価値や俯瞰的なものの見方、薬学に関する倫理問題について理解する。生命の尊厳を尊重した研究倫理を学び、社会から信頼されるために必要な知識と基準を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(28 若命浩二/2回)</p> <p>ヒトを対象とする臨床試験における研究倫理の原則と医療・生命倫理の原則を学ぶ。</p> <p>(16 加納誠一朗/2回)</p> <p>ヒトを対象とする臨床試験を行うための倫理委員会の機能、研究推進とその不正防止に関わる委員会の役割、臨床試験申請書の作成方法を学ぶ。</p> <p>(33 齋藤貴士/2回)</p> <p>治験審査委員会の機能と患者の自己決定権に関わる生命の尊厳を尊重した研究倫理を学ぶ。</p> <p>(20 三浦淳/2回)</p> <p>ヒトを対象とする臨床試験における医療従事者の責任を学び、医師主導の臨床研究の申請、遂行方法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	先端医療と薬学	<p>(概要)</p> <p>先端的な高度医療を理解するとともに、先進的な医療薬学や臨床薬学を医療施設において実践することの役割や重要性について理解する。医療法人浜仁会 手稲浜仁会病院における先端医療とその遂行に関わる医師と薬剤師の役割を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(32 山下美妃/2回)</p> <p>総合病院における高度医療に関わる薬剤師の役割と医師・看護師・薬剤師の連携を学ぶ。</p> <p>(31 町田麻依子/2回)</p> <p>特定の医療領域に特化した病院における高度医療に関わる薬剤師の役割と医師・看護師・薬剤師の連携を学ぶ。</p> <p>(24 小松健一/1回)</p> <p>西洋薬と漢方薬の薬理学的特性を理解した上での合理的併用による薬物療法を学ぶ。</p> <p>(27 今井伸一/1回)</p> <p>医薬品の薬理学的特性を理解した上での合理的併用による薬物療法を学ぶ。</p> <p>(38 湯田聡/1回)</p> <p>医師の立場から、先進的な高度医療に関する知識や概念、および医師と薬剤師の関わりを理解する。</p> <p>(37 本郷文教/1回)</p> <p>薬剤師の立場から、先進的な高度医療に関する知識や概念、および薬剤師と医師の関わりを理解する。</p>	オムニバス方式
	現代社会と薬学	<p>(概要)</p> <p>薬剤師及び医薬品系企業が担う役割について理解するとともに、臨床と社会の界面に生じる問題群の理解及びその原因と解決策について考究する。病院薬剤部における薬剤師の役割、「かかりつけ薬局」、「かかりつけ薬剤師」としての薬局における薬剤師の役割を学ぶ。また、医薬品系企業における新薬の創製などの医薬品開発を取り巻く環境と現状を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(8 佐藤秀紀/2回)</p> <p>病院薬剤部における薬剤師の役割について学ぶ。</p> <p>(22 村上美德/2回)</p> <p>薬局における薬剤師の役割について学ぶ。</p> <p>(35 岸本桂子/2回)</p> <p>薬剤師の業務が社会に対して与える影響について学ぶ。</p> <p>(26 村岡早苗/2回)</p> <p>製薬企業における薬剤師の役割について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	研究表現技法	<p>(概要)</p> <p>薬学研究に関する正しい日本語の表現(文字、語彙、文構造、接続表現)及び英文の正しい書き方と英語によるプレゼンテーション技法について考察する。特に、国内、国際学会において研究成果を発表する際の日本語と英語によるコミュニケーション能力を培う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(4 黒澤菜穂子/2回)</p> <p>研究成果を英語により論文発表する際に必要な文章作成方法を学ぶ。</p> <p>(36 高栗郷/2回)</p> <p>研究成果を国際学会において発表する際に必要な研究発表に用いられる文章作成方法と英語によるディスカッション能力を培う。</p> <p>(34 水上徳美/2回)</p> <p>研究成果を日本語により論文発表する際に必要な文章作成方法を学ぶ。</p> <p>(30 立浪良介/2回)</p> <p>研究成果を国内学会において発表する際に必要な研究発表に用いられる文章作成方法とディスカッション能力を培う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究	<p>(概要) 各教員が掲げる臨床薬学領域の研究課題を選択し、課題研究を遂行する。臨床的な問題を抽出し、その解決のための研究計画の立案、実施、結果の解析・評価、学会発表、論文作成までの一連の流れを実践することにより、臨床薬学研究を客観的に評価できる知識、技能、態度を学修する。</p> <p><地域医療薬学課題研究> (10 古田精一) ・在宅医療の進展に向けた実践研究 (17 櫻井秀彦) ・在宅医療の医療経済的側面からの評価研究 ・薬局業務の評価に関する研究 (14 丹保好子) ・予防医学未病など健康の維持・増進、保健衛生の諸問題の分析と評価 (18 前田伸司) ・感染症の予防、微生物の病原性因子に関する研究</p> <p><薬物治療学課題研究> (12 早川達) ・薬剤管理指導(薬歴管理)業務における知識・技術の体系化と評価 ・薬物治療における患者個体差の解析 (15 今田愛也) ・産科婦人科領域の薬物治療の適正化の研究 (13 佐藤久美) ・糖尿病と心血管系疾患の関連に関する実験的研究 ・心不全患者に対するβ遮断薬治療の研究 (9 江川祥子) ・関節リウマチの疾患、治療効果を評価するバイオマーカーに関する研究 ・アデノシンデアミナーゼ2に関する研究 (5 伊藤慎二) ・エストロゲンの代謝活性化による発癌に関する研究 (11 櫻井光一) ・酸化ストレスによる糖尿病発症メカニズムに関する研究 ・活性酸素による心筋細胞死と細胞内シグナル伝達機構に関する研究 (7 和田浩二) ・アイヌ伝承の薬用及び食用植物の生理活性成分の探索研究</p> <p><臨床薬剤学課題研究> (8 佐藤秀紀) ・がん化学療法における副作用とその対策に関する研究 ・腎不全領域での薬剤の適正使用に関する研究 (21 丁野純男) ・がん、脳・心血管疾患、呼吸器疾患などの治療を指向したDDS研究 ・ドラッグキャリアーや薬物の体内・細胞内動態に関するDDS研究 (2 渡辺一弘) ・薬物の体内動態と相互作用に関する研究 ・薬物の輸送に関与する薬物トランスポーターの調節と機能に関する研究</p> <p><個別化医療薬学課題研究> (20 三浦淳) ・疾患の発症、および薬物の効果・副作用に影響する遺伝子多型の解析 (6 多田均) ・突発性肺線維症治療を目的とするインテリジェント薬物送達システムの構築 (1 猪爪信夫) ・薬物血中濃度と臨床効果データの母集団pharmacokinetic/pharmacodynamic解析 ・薬物の体内動態と臨床効果の個体差 ・妊婦に用いる薬物の適正使用 (19 戸田貴大) ・薬物血中濃度と臨床効果データの母集団pharmacokinetic/pharmacodynamic解析 ・薬物の体内動態と臨床効果の個体差</p>	

学校法人北海道科学大学 設置認可等に関する組織の移行表

【平成29年度】

【平成30年度】

大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員		大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
北海道科学大学大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 電気電子工学専攻 情報工学専攻 医療工学専攻 建築学専攻 都市環境学専攻	5 4 4 6 4 4	— — — — — —	10 8 8 12 8 8	⇒	北海道科学大学大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 電気電子工学専攻 情報工学専攻 建築学専攻 都市環境学専攻	5 4 4 4 4 4	— — — — — —	10 8 8 0 8 8	平成30年4月 学生募集停止
工学研究科 博士後期課程 工学専攻	6	—	18	⇒	工学研究科 博士後期課程 工学専攻	6	—	18	
計	33	—	72	⇒	保健医療学研究科 修士課程 看護学専攻 リハビリテーション科学専攻 医療技術学専攻	5 4 4	— — —	10 8 8	平成30年4月 研究科の設置(認可申請)
				⇒	工学研究科 博士課程 臨床薬学専攻	3	—	12	平成30年4月 研究科の設置(認可申請) ※第1・2・3・4年次開設
計	33	—	72		計	43	—	98	
北海道科学大学 工学部 機械工学科 情報工学科 電気電子工学科 建築学科 都市環境学科	92 90 80 80 50	— — — — —	368 360 320 320 200	⇒	北海道科学大学 工学部 機械工学科 情報工学科 電気電子工学科 建築学科 都市環境学科	92 90 80 80 50	— — — — —	368 360 320 320 200	
保健医療学部 看護学科 理学療法学科 義肢装具学科 臨床工学科 診療放射線学科	80 40 50 70 50	— — — — —	320 160 200 280 200	⇒	保健医療学部 看護学科 理学療法学科 義肢装具学科 臨床工学科 診療放射線学科	80 40 50 70 50	— — — — —	320 160 200 280 200	
未来デザイン学部 メディアデザイン学科 人間社会学科	80 50	— —	320 200	⇒	未来デザイン学部 メディアデザイン学科 人間社会学科	80 50	— —	320 200	
空間創造学部 建築学科 都市環境学科	0 0	— —	0 0	⇒		0 0	— —	0 0	平成26年4月 学生募集停止 平成26年4月 学生募集停止
計	812	—	3248	⇒	薬学部 薬学科	180	—	1080	平成30年4月 学部の設置(認可申請) ※第1・2・3・4・5・6年次開設
計	812	—	3248		計	992	—	4328	
北海道薬科大学大学院 薬学研究科 博士課程 臨床薬学専攻	3	—	12	⇒		0	—	0	平成30年4月 学生募集停止
計	3	—	12		計	0	—	0	
北海道薬科大学 薬学部 薬学科	210	—	1260	⇒		0	—	0	平成30年4月 学生募集停止
計	210	—	1260		計	0	—	0	
北海道科学大学短期大学部 自動車工学科	150	—	300	⇒	北海道科学大学短期大学部 自動車工学科	150	—	300	
計	150	—	300		計	150	—	300	